日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行　日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3－6　電話24－2456

反戦平和掲げ101年
国民の困ったの声によりそい
個性が大切にされる社会実現を

宣伝する（左から）岩田、上代、むらほ、尾村、たちばな、舟木の各氏

日本共産党創立一〇一周年
むらほ予定候補、県議、市議がアピール

日本共産党は7月15日創立101周年を迎えました。

むらほえりこ衆院島根1区予定候補、上代善雄県委員長、尾村利成県議（副委員長）、岩田剛東部地区委員長、舟木健治、たちばなふみ両松江市議が松江市内で宣伝、反戦平和を貫いてきた党の歴史を紹介し、次期衆院選で党躍進を勝ち取るために奮闘する決意を訴えました。

むらほ氏は、戦争する国づくりを加速させる岩田政権にふれ「これで国民の暮らしや人権が守られるのか」「高すぎる教育費何とかしてほしい、年金を上げてほしい、8時間働けば暮らせる社会にしてほしいという国民の願いを聞かない岩田政権を解散・総選挙に追い込もう」「日本共産党は戦争反対、国民主権の旗を掲げて101年です。日本共産党の政策を知っていただき、党の躍進で、国民の一人ひとりの暮らしに寄り添う新しい政治に、大もとから変えていきましょう」と呼びかけました。

尾村県議は「国民の苦難軽減が立党の精神。アメリカ言いなり、財界のもうけ最優先の政治を大もとから変えて、暮らしと憲法、平和を守るために頑張り抜く」と訴えました。

社会の歩みに人生を重ねて③
本をめぐる話①

衆議院島根一区予定候補　**村穂江利子**

村穂江利子予定候補

本好きな仲間の集まりで自分の本棚を公開するのは少し勇気がいるという話をしたことがあります。なぜなら、どんな本を読んでいるか、どんな読書遍歴をもつかは、その人自身の関心や嗜好とイコールであると考えるため、少なくとも私自身は素の自分をさらすに似た気持ちに襲われるからです。同様に、好きな本、特に小説などの文学作品について語ることには、なおさらその気持ちが強くなります。それは、小説というジャンル自体が、その世界を生きる登場人物に自らを投影させてしまうものとして存在しているからかもしれません。

そのように感じる私なので、今回、次期衆院選候補者として、報道各社から求められた調査書の質問項目に、「好きな小説」とあるのを見つけた時は、少々困りました。単純に好きな作品を挙げるのであれば一、二作品には絞りようないわけです。しかし、ここで求められているのは、恐らく生き方に関わるような作品のことであり、それを通して候補者の人となりを暗に知らせたいという、質問の意図を感じたからです。

困りつつも意図を汲んだ私は、次の二作品を好きな作品として回答しました。パール・バックの「大地」と、マーガレット・ミッチェルの「風と共に去りぬ」です。両作品ともに、十代で出会った長編の海外文学作品。次回の本欄では、十代の感性に何が響いたのか、あの頃の私に会いに、少し時間を遡ってみたいと思います。